

10 月 18 日（日）に行われた平成 27 年秋期の情報処理技術者試験について、基本情報技術者試験の合格発表がありました。試験に関する統計データをもとに、全体の得点分布と合格率関連の情報をお知らせします。

■基本情報技術者試験(FE)

〔平成 27 年秋期の基本情報技術者試験 統計情報〕

応募者	73,221 人
受験者	54,347 人
合格者	13,935 人
合格率	25.6%

今回の試験に関係するトピックスとしては、表計算ソフトの仕様でセルの範囲指定に使う記号が“:”に変更になった初めての試験です。また、午前試験のセキュリティ分野の出題数増加と午後試験のセキュリティ問題が必須になってから 4 回目になります。

試験結果は合格率が 25.6%で、前回の 26.0%と大きくは変わりません。

問題の難易度について、午前試験は前回とほぼ同じと思われますが、発表された統計データから計算した平均点の推測値は 59.0 点（前回は 58.1 点）で、全体の得点率は前回よりも高くなっています。

次に、午後試験の必須問題は、情報セキュリティが普通レベル、アルゴリズムの問題が高度な文字列処理のアルゴリズムでやや難しい内容でした。統計データから計算した平均点の推測値は 50.3 点（前回は 51.0 点）で午後試験の点数は少し下がっています。

今回の試験の傾向や特徴を少し細かい内容でまとめると、次のようになります。

〔午前問題〕

- ・今回はテクノロジーが 50 問、マネジメントが 10 問、ストラテジが 20 問でした（前回、テクノロジーが 51 問、マネジメントが 10 問、ストラテジが 19 問の変則的な問題数でした）。
- ・過去問題の比率は今回特に多く全体の約 7 割になっています。基本情報の過去問は 40 問ありました。また、応用情報の過去問が 13 問ありましたが特に難しい問題はありませんでした。新しいテーマの問題は 12 問ほどありました。全体としては例年並みの難易度だったと思われます。
- ・新傾向または新しい用語に関するテーマは、次の問題です。

問 4 デジタル化の利点

問 10 平均メモリアクセス時間が増加する原因

問 18 メモリアクセス時間の計算

問 29 ロックの両立性

問 40 ISMS 適合性評価制度

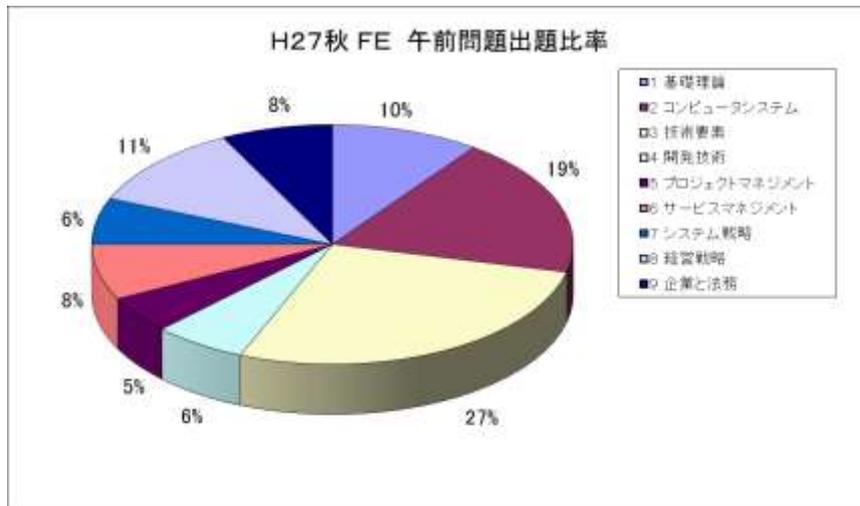
問 43 ワームの検知方式

問 45 2 要素認証

問 60 正確性コントロール監査のチェックポイント

- 問 66 総合評価落札方式
- 問 74 スマートメータの導入目的
- 問 79 サイバーセキュリティ基本法
- 問 80 独占禁止法の目的

平成 27 年秋期の基本情報技術者試験



(テクノロジー分野: 1~4, マネジメント分野: 5~6, ストラテジ分野: 7~9)

出題が強化されたセキュリティ分野の出題数は 4 回連続で 10 問でした。応用情報技術者試験など上位試験で出題された問題も含まれているので、セキュリティに関しては新しい話題も日頃から理解するように心がけてください。また、午後試験で必須となったセキュリティ問題を解答するのもに必要な知識として、最近の出題内容を確実に理解しておく必要があります。

〔午後問題〕

問 1 の情報セキュリティが必須、問 2~7 の知識の応用問題から 4 問選択、問 8 のアルゴリズムが必須、問 9~13 のプログラミングの問題から 1 問選択という形式です。今回出題された午後試験問題の出題分野とテーマは、次のとおりです。

問	テーマ	出題分野	難易度
1	ログ管理システム	情報セキュリティ (必須)	普通
2	浮動小数点数	ハードウェア	普通
3	出荷データを管理する関係データベースの運用	データベース	普通
4	Web サイトにおけるセッション管理	ネットワーク	やや難
5	決定表を用いた注文機能の設計	ソフトウェア設計	普通
6	プロジェクトの見積り	プロジェクトマネジメント	普通
7	新システム稼働による業績改善	経営戦略・企業と法務	やや易
8	Boyer-Moore-Horspool 法の文字列検索	データ構造及びアルゴリズム	やや難
9	入退室状況の印字	ソフトウェア開発 (C)	普通
10	アンケート結果の分析	ソフトウェア開発 (COBOL)	普通
11	ブロックのデータのキャッシュ管理	ソフトウェア開発 (Java)	やや易
12	ビット列の挿入	ソフトウェア開発 (アセンブラ)	普通
13	PC 販売店での購入金額の計算	ソフトウェア開発 (表計算)	普通

必須問題の情報セキュリティの出題内容はログの改ざんや漏えい防止，ダウンロードの異常検知に関する技術寄りの問題でした。問 2～問 4 は，ハードウェア，データベース，ネットワークのテーマで出題され，ソフトウェアの出題はありませんでした。問 5 のソフトウェア設計の問題は決定表を題材としたもので，前回 E-R 図の読解問題だったのに続いて，従来から出題されているファイル処理の問題とは内容がかなり異なってきています。問 6 のマネジメント分野の問題はプロジェクトマネジメントの見積りに関する問題でした。問 7 は経営戦略・企業と法務の問題で過去に出題されたことがある利益分析，グラフ化，決定木の出題でした。

問 8 のアルゴリズム問題は，ホイヤー・ムーア・ホールスプール法というアルゴリズムを用いた文字列処理の問題で，少し難しい問題だったといえます。

問 9 からのプログラム言語の問題では，Java が例年よりもやや易しく，他の C 言語，COBOL，アセンブラ，表計算の問題は標準的な難易度でした。表計算は仕様が変わりましたが問題内容の傾向は変わりませんでした。

試験センターから発表された基本情報技術者試験の得点分布をグラフと合わせて示すと，次のようになります。なお，午後試験の受験者数が午前試験よりも 7,068 人多いことから，教育機関で所定の学習を修了し午前試験免除で受験した方がおおよそこの人数いたと考えられます。

〔平成 27 年秋期 統計情報(基本情報 得点分布)〕

得点	午前試験	午後試験
0 点 ～ 9 点	11	649
10 点 ～ 19 点	47	1,744
20 点 ～ 29 点	1,254	3,658
30 点 ～ 39 点	4,367	7,843
40 点 ～ 49 点	7,683	11,640
50 点 ～ 59 点	9,727	12,099
60 点 ～ 69 点	10,354	8,915
70 点 ～ 79 点	8,606	4,647
80 点 ～ 89 点	4,007	1,902
90 点 ～ 100 点	456	483
計	46,512	53,580
午前と午後の差	(午前免除者予測)	7,068
合格者数	13,935	合格者数との差
午前 60 点以上合計	23,423	9,488
午後 60 点以上合計	15,947	2,012

今回の結果を少し詳しく分析すると，午前試験で合格基準点の 60 点以上の人が 23,423 人いて，受験者の 50.4%（前回は 47.8%）で前回よりも 3%ほど高くなっています。また，午後試験が基準の 60 点以上だった人は 15,947 人（午後試験受験者の 29.8%）いて，前回の 31.5%よりも少し下がっています。

ここで，午前試験であと 10 点足りなかった人（得点 50～59 点）が 9,727 人（全体の 20.9%）おり，午後試験であと 10 点足りなかった人も 12,099 人（全体の 22.6%）と例年よりも比率は下

りましたが、それでもかなりの率の方がいます。

このように“あと一步”の人が多くことから、午前試験では仕上げの学習を確実にやり知識を定着させる必要があります。午後試験では、まずは午前で出題される知識を深めること、次に問題演習する際には15分～30分という標準解答時間中は、仮に分からないところがあっても考え続ける力を養うこと、そして、模擬試験を受験してアルゴリズムやプログラム言語問題を解くときに、解答時間の調整に慣れるなど、実戦的な力を身に付けることが重要です。

(今回合格された人)

今回見事合格された方は、ステップアップしたITスキル標準レベル3の応用情報技術者試験にチャレンジしましょう。試験難易度が一段上がります。

基本情報技術者試験の内容がベースになりますので、苦手分野や今回解けなかった問題などを中心に、まず「コンピュータシステムの基礎」のテキストでチェックし、今まで読み飛ばしていたところや苦手意識のある内容も含めて、再度学習することが大切です。

応用情報技術者試験を初めて受験する方には、基礎から段階的に知識の積み上げができる通信教育がおすすめです。書籍、eラーニング（WEB教材・WEBテスト）、公開模試の初学者でも合格のために必要な全てをセットにしたブレンド学習コース「試験対策コース」なら、試験範囲全体を短期間で万遍なく学習することが可能です。

その他、学習にあたっては、通信教育や書籍以外にも、午前試験対策に重点をおいた「宿題メール」。受験対策のプロ講師が応用情報技術者の試験対策セミナーを行う「午後対策セミナー 合格ゼミ」など、学習アイテムを豊富に取り揃えております。通信教育に午前試験対策の「宿題メール」を追加するなど組合せは自由自在なので、自身の弱点分野を克服しつつ次のステップアップを目指しましょう。

(今回残念ながら不合格だった人)

今回の午前および午後試験の得点が50点～59点だった人は、合格ラインまで“あと一步”のところまで実力がついていきますので、身に付けた知識が薄れないうちに、早めに次回試験の対策を始めましょう。50点未満だった人は、基礎的な知識の理解が不十分ですので、「コンピュータシステムの基礎」などの基礎テキストで基礎知識をしっかりと学習し直す必要があります。午後試験ではプログラム言語に加えて表計算ソフトの問題も出題されています。プログラム言語が苦手な方は表計算ソフトで受験することも検討してみてください。この表計算ソフトについては、マクロに関する問題も出題されており、処理の考え方（アルゴリズム）の要素も加わっています。

再受験される方には、午前試験対策はポイント確認とトレーニング問題、午後試験対策は重要ポイントを音声・スライドで解説などの充実した弱点補強に最適な演習型eラーニングコース「WEB演習コース」や、本番と同じ条件（出題形式・出題数・試験時間）で実施される模擬試験を受験し、ベテラン講師による採点評価で自身の弱点を把握することができる「全国統一公開模試」などがおすすめです。午前試験対策の「宿題メール」、午後試験対策の「合格ゼミ」などを組み合わせれば、さらに合格へと近づくことができるでしょう。不足している知識や分野ごとに組み合わせで補強して次回合格を勝ち取りましょう。

2016年春期試験対策の新しい書籍については弊社のホームページからご覧ください。

<http://www.itec.co.jp>

■現在刊行済みの2016年用 試験対策書籍

- ・午前試験対策おすすめ書籍



- ・午後試験対策おすすめ書籍



- ・予想問題集が試験対策のプロが本試験の出題傾向を徹底的に分析し新登場!!



■今後の刊行予定書籍

- ・「2016 春 徹底解説 基本情報技術者 本試験問題」 2016/1/末 発売予定
- ・「2016 春 徹底解説 応用情報技術者 本試験問題」 2016/1/末 発売予定

直近の本試験の内容を理解して、出題傾向を把握するのに最適!!